

テーマ名 北海道小樽高等支援学校の概要及び各学科の製品紹介

団体 北海道小樽高等支援学校



本校は、平成 21 年 4 月に職業学科を設置する知的障がい特別支援学校高等部として開校しました。学科は、木工科、生活家庭科のほか、近年の産業動向や生徒の進路状況の変化などを考慮し、環境・流通サポート科、福祉サービス科、生活技術科の 3 学科を北海道として初めて設け、校内には常設の cafe コーナーがあります。また、本校は「感動 協働 躍動」を校訓として掲げ、「豊かな心を持ち 力をあわせて 生き生きと活動する 生徒を育てる」を学校教育目標とし、職業自立など社会自立に必要な

基礎的、基本的な能力を高め、実践的な態度を育てるように取り組んでいます。開校以来、地域での学習活動を推進し、働く意味や自己有用感を高める指導の工夫に努めています。

各学科の作業学習では、cafe コーナーで販売するクッキーやパンの製造のほか、近年は、保育所や幼稚園を訪問し製品（玩具）を通じた交流、東京おもちゃ美術館が主催する Book&Toy プロジェクトに参加し、ミヤンマーに贈る囲碁版セットの製作、商業高校と共同開発した製品を地域のお祭り販売するなどの、新たな取り組みも行っています。また、銭函海岸や共同住宅での清掃活動、独居老人宅の除雪活動などにも取り組んでいます。



各学科の製品

テーマ名 小樽工業高校生徒作品

団体 北海道小樽工業高等学校

- 電子機械科・・・アクリル板の表面切削作品、鋳造による青銅製の表札、ロボットサッカー
 - ・アクリル板表面切削作品：3 年生の電子機械科では、MC（マシニングセンタ）という工作機械を用いて、プログラミングの方法、MC の使用方法を学んでいます。例年、自分達の作りたい作品を製作しており、文字やイラストなど様々な作品が仕上がっています。
 - ・青銅製の表札：2 年生の電子機械科では、鋳造による表札を製作しています。道内の工業高校で唯一、青銅を材料とした鋳造を行っており、模型、砂型の製作から、鋳込み、仕上げまで一連の作業を学んでいます。手仕上げによる最終仕上げでは、丁寧な作業を行うことで、きれいな作品に仕上がるため、やりがいのある実習の一つです。
 - ・ロボットサッカー：科学研究部では、毎年、室蘭工業大学主催のロボットサッカーコンテストに出場しています。無線操作部門（B クラス）には、小学生から大人まで幅広い年齢層が参加しています。昨年度は無線操作部門（B クラス）で、本校のロボットが、上位を独占し、3 連覇を果たすことができました。詳細は室蘭工業大学のホームページに掲載されています。
- 電気科・・・直流安定化電源、アンプ内蔵スピーカーボックス、電気工事作品（パネル）

電気工事作品は第 1 種電気工事技能試験を受験した生徒が製作したものです。
- 建設科・・・小樽運河の模型 2 個（1800mm×600mm）【課題研究における作品】、高校生建築デザインコンクール、卒業設計製図パネル 2 つ（850mm×600mm）、コンクリート平板 3 つ（300mm×300mm）

高校生建築デザインコンクールは毎年生徒が取り組んで参加しております。

テーマ名 電子機械科紹介PV製作、作品展示

団体 北海道札幌琴似工業高等学校

学校紹介や電子機械科の紹介は、誰を対象にしているか明確でしょうか。そこを追求していますか。コミットメントできていますか。私たちは、中学生や小学生といった、まだ工業といったものがよくわからない、まして電子機械科が何をしているのかわからない生徒を対象にしました。そこを深く考えると、実習内容を説明してもその専門用語自体がわからないということです。人が見えないと、言葉もモノも伝わらない、評価されないということです。そこで、テーマを、いかに工業という分野の中で、私たちが楽しく、心を躍らせて、かっこよく、ものづくりに関わっているのかを伝えようと、PV製作を発案しました。

見て、触ってすごいねといったモノはたくさんあります。しかし、そういったモノに触れて、実際に私も僕もやりたいと思う人は何人いますか？

今こそ、工業人の発想のイノベーションが必要です。このPVは、ものづくり一緒にやろうぜ、というメッセージです。企画、撮影、編集、役者すべて、電子機械科3年生のみのオリジナル製作です。

その他、電子機械科で取り組んでいる、3級旋盤技能検定の作品、3級仕上技能検定の作品、課題研究の水素燃料電池セパレーター部品を展示します。

テーマ名 開発途上国にはばたくボランティアと日本の中小企業

団体 独立行政法人国際協力機構（JICA）北海道国際センター

私たち JICA は、日本が行う国際協力の一環として、技術・経験があり開発途上国のために貢献したいという方をボランティアとして派遣しています。募集は春・秋の2回、青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア（20～39歳）、シニア海外ボランティア・日系社会シニアボランティア（40～69歳）の4種類があり、建築、木工、電気・電子機器、PCインストラクター等、募集職種ごとに必要な資格・経験が異なります。次期募集に関する情報は、3月からホームページに掲載されます。

また、中小企業がお持ちの優れた技術力を開発途上国の経済社会開発に活かしていただくため、基礎調査、案件化調査、普及・実証事業のメニューに加えて、企業関係者向けのセミナーを随時開催しています。ご関心のある方は JICA 北海道までお問合せ下さいませ。



中小企業普及・実証事業

インドネシア・(株)みどり工学研究所 熱帯雨林
の中で自社製品（テレメトリー）を設置



建築・ブータン（撮影者：野町 和嘉/JICA）